

平成 24 年 2 月 ×日

〇〇県知事

様

精神科病院名 〇〇病院
所在地 〇〇県△△市×-×-×
管理者 〇山 △男 印

医療保護入院者	フリガナ	マルキ バツロウ		生年月日	明治 大正 昭和 平成	43年〇月×日生 (満43歳)
	氏名	〇木 ×郎 (男・女)		今年月日	昭和 平成	
	住所	〇〇県△△市□-□-□				
医療保護入院年月日 (第33条第1項による入院)	昭和 平成	23年2月×日	今回の入院年月日	昭和 平成	23年2月×日	
前回の定期報告年月日	平成	年 月 日	入院形態	医療保護 (33-1)		
病名	1 主たる精神障害 統合失調症 ICDカテゴリー (F20)		2 従たる精神障害 ICDカテゴリー ()		3 身体合併症	
生活歴及び現病歴 [推定発病年月、精神科又は神経科受診歴等を記載すること。]	同胞2人の第2子として出生。発育、発達には特記事項なし。大学までは問題なく生活していたが、友人は少なかった。大学卒業後、就職するも、同時期より、幻聴、被害妄想が出現。平成2年7月×日、当院を受診。統合失調症の診断で、同日より、平成3年2月×日まで入院となった。その後、外来通院を継続し、症状は比較的安定していた。平成20年、父親が急死した事を契機に症状悪化し、平成20年10月×日～平成21年5月×日、第2回入院となった。退院後、怠業傾向もあり、症状が再燃し、平成23年2月×日、第3回入院となった(医療保護入院)。入院後は、閉鎖病棟にて、薬物、精神療法を継続している。(陳述者氏名 〇木 ×子 続柄 母)					
初回入院期間	昭和 平成	2年 7月 ×日～	昭和 平成	3年 2月 ×日	(入院形態 医療保護)	
前回入院期間	昭和 平成	20年 10月 ×日～	昭和 平成	21年 5月 ×日	(入院形態 医療保護)	
初回から前回までの入院回数	計 2 回					
過去12か月間の外泊の実績	① 不定期的 ② 定期的 (ⅰ月単位、ⅱ数か月単位、ⅲ盆や正月) ③ なし					
過去12か月間の治療の内容と、その結果及び通院又は任意入院に変更できなかった理由を記載すること	薬物療法、精神療法を主に、作業療法等を併用しながら治療を行った。しかし、治療への反応は限定的で、時に被害的な幻覚妄想が増悪し、他患への暴力行為も認められる。現実検討能力は低下しており、病識も不十分であり、入院治療の必要性を繰り返して説明するも理解できず、医療保護入院を継続している。					
症状の経過	1 悪化傾向 ② 動揺傾向 3 不変 4 改善傾向					
今後の治療方針を記載すること(患者本人の病識や治療への意欲を得るための取り組みについて)	当面は、幻覚妄想の消滅を目的として、薬物療法、精神療法、作業療法を継続する。また、疾病教育を行い病識や治療意欲の獲得を目指すとともに、スタッフからの積極的な声かけを行うなど、他者との関わりを増やす方法も検討する。					
<現在の精神症状>	I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他 () II 知能(軽度障害、中等度障害、重度障害) III 記憶 1 記憶障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他 () IV 知覚 ① 幻聴 2 幻視 3 その他 () V 思考 ① 妄想 2 思考途絶 ③ 連合弛緩 4 破壊思考 5 思考奔逸 6 思考制止 7 強迫観念 8 その他 () VI 感情・情動 ① 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他 ()					

<その他の重要な症状>
<問題行動等>
<現在の状態像>

- 1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 () 4 その他 ()
 1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他 ()
 ① 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態
 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状
 10 その他 ()

本報告に係る診察年月日 平成 24年 2月 □日

診療所した
精神保健指定医氏名

署名 〇田 □助

保護者	氏名	〇木 ×子 (男・女)	続柄 母	生年月日	昭和 平成	大平 13年 9月 ×日生 昭・大 昭・平 年 月 日生
	住所	〇〇県△△市□-□-□				
	1 後見人又は保佐人 2 配偶者 3 親権を行う者 ④ 家庭裁判所が選任した者(選任年月日 昭和・平成 20年 10月 □日) 5 その他 ()					

審査会意見

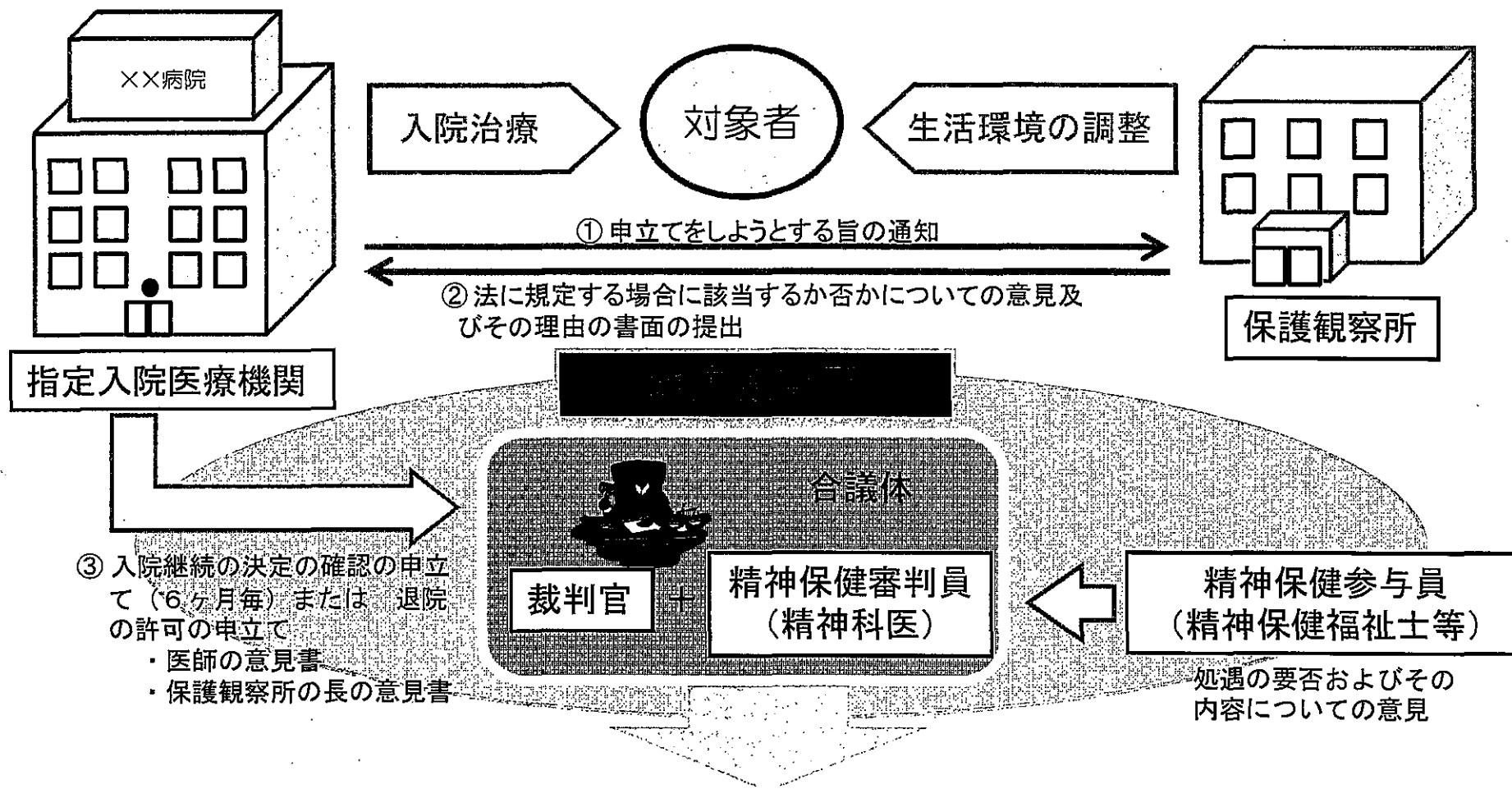
都道府県の措置

記載上の留意事項

- 内は、精神保健指定医の診察に基づいて記載すること。
- 今回の入院年月日の欄は、今回着病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。(第33条第2項又は特定医師による入院を含む。その場合は「第33条第2項入院」、「第33条第1項・第4項入院」、「第33条第2項・第4項入院」又は「第33条の4第2項入院」と記載すること。)なお、複数の入院形態を認めている場合には、順に記載すること。(第33条第2項又は第33条第2項・第4項による入院の場合は、入院した年月日も併せて記載すること。)
- 生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。
- 生活歴及び現病歴の欄は、前回の報告のコピーでもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。
- 平成20年3月31日以前に公表している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。
- 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書項作成までの過去12か月間に認められたものとし、主として最近のものに重点を置くこと。
- 診断した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 保護者の氏名欄は、親権者が両親の場合は2人目を記載すること。
- 保護者の住所欄は、親権者が両親で住所が異なる場合に2つ目を記載すること。
- 選任医の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。

(A3)

医療観察法における入院継続等の手続き



[審判の結果]

- 入院を継続すべき事を確認する旨の決定（入院継続）
- 退院を許可するとともに入院によらない医療を受けさせる旨の決定（退院許可決定）
- この法律による医療を終了する旨の決定（処遇終了決定）